

「樹木管理用システム」の特許取得について

(公財) 東京都公園協会(本社: 東京都新宿区、理事長: 矢岡俊樹)は、「樹木管理用システム」(以下「当システム」)を構築し、2024年5月より運用を開始しています。当システムについて、この度2025年3月に特許を取得しましたので、お知らせいたします。(特許第7646284号)

当システムは、都立公園・庭園・霊園の樹木点検を行うにあたり、DX化により点検の効率を上げ、より丁寧な樹木点検を実現し、安全で快適な園内環境を維持するために開発されました。

1. システム構築・特許取得の背景

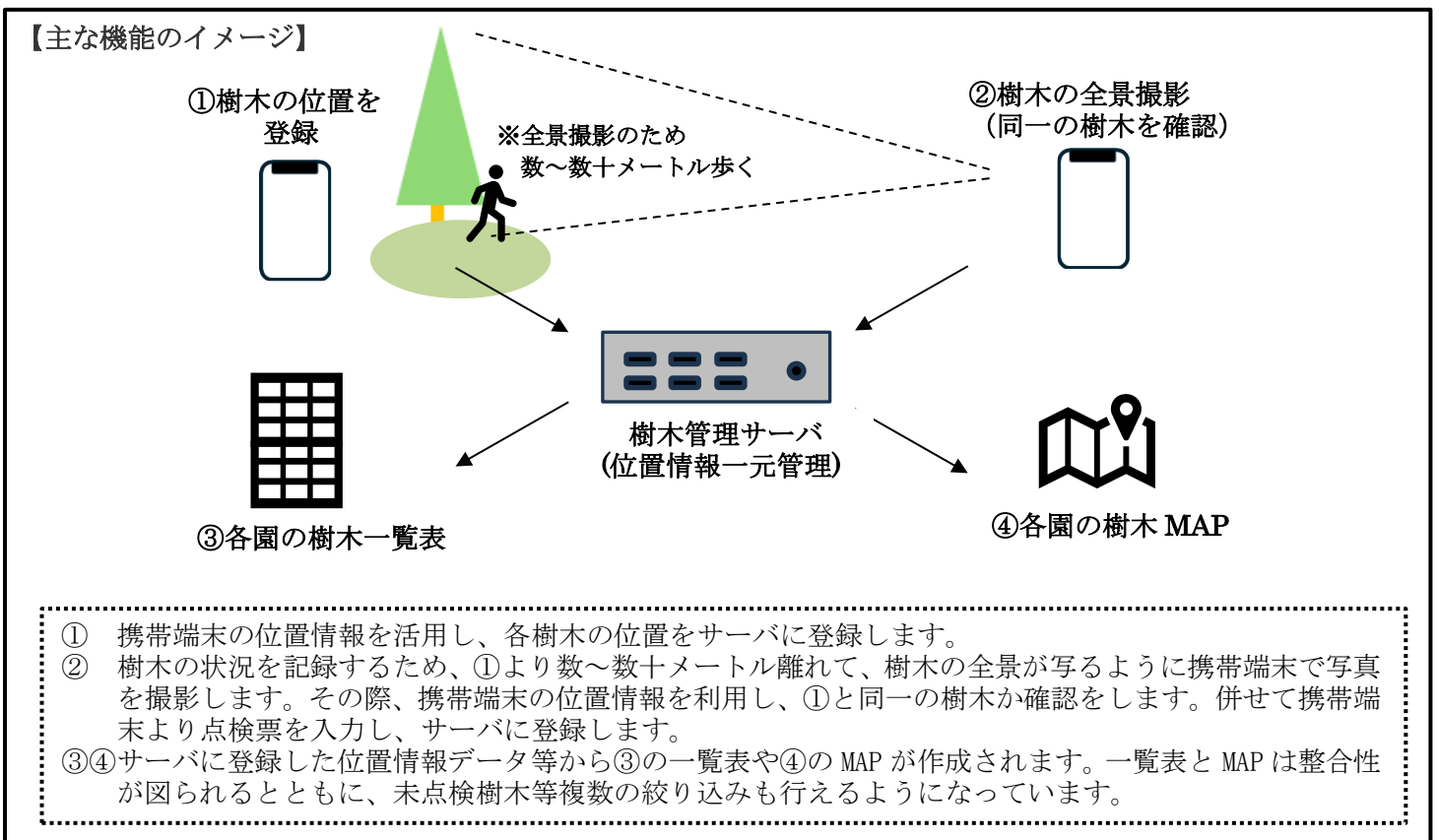
当協会では、ご来園者様の安全を確保し、安心してご利用していただくため、定期的に各園の樹木の点検を行っております。

従来は、現地で点検員がデジカメで樹木の状況を撮影し、樹木の点検結果を紙の点検票に記載してから各園の事務所に戻り、紙の点検票やデジカメの写真データをもとに、EXCELの点検票を作成するとともに、各園のマップをベースにした樹木MAPを作成し、メールやフォルダ共有にて社内で情報共有していましたが、作業量の多さや共有までに時間がかかることが問題になっていました。

そこで、上記の樹木管理業務をDX化することとし、その中で特許技術を考案しました。

2. システム概要

従来、点検員が現地と事務所で進めていた各園の樹木管理業務について、現地で携帯端末を活用して行うことで、即時に各園の点検票やMAPを作成できるようになりました。具体的には、下記図の通りです。



3. 今後の取組について

日本国内における公園等で樹木管理を行っている自治体や他の企業のニーズにより、当システムの活用及び提供を検討していきます。

また、当協会は、今後もDXを活用した新たな取組に挑戦し続けてまいります。

【問い合わせ先】

